

2007年3月7日

パリ日本文化会館10周年記念【柔道講演・実技指導報告書】

国際交流基金 文化事業部 御中

東海大学
山下 泰裕

1. 期間

2007年2月2日（金）～10日（土）

（詳細は、別紙添付）

2. 場所

フランス（マルセイユ市、パリ市、ボルドー市の3都市）

3. 構成員

山下泰裕（東海大学教授）

中西英敏（東海大学助教授、マルセイユ・パリ市での実技指導参加）

中川正輝（パリ文化会館館長）

4. 目的

パリ日本文化会館10周年記念事業の一環として、フランスで大変人気があり普及している柔道の講演、実技指導を通して、フランスの人々に日本文化の理解を深める。

5. 感想

今回、パリ日本文化会館の10周年記念事業に参加させていただいたが、会館側とフランス柔道連盟側の連携が非常に良く、講演も実技指導も大変良く準備されていた。以下、実技指導と講演に分けて報告したい。

1) 実技指導

マルセイユでは、実技指導に参加した子供達や指導者が約1000名、パリでは指導者のみ約150名、ボルドーでは子供達や指導者が約1200名集った。指導内容は、3ヵ所とも、まず得意技のデモンストレーション、その説明と反復練習、質疑応答を基本とした。また、事前に現地指導者と打ち合わせを行い、彼らの要望を付け加える形で指導を行った。フランスで柔道が盛んな事は、私自身も充分承知していたが、正直、現役引退して21年の私がこれ程大歓迎されるとは予想出来なかった。

マルセイユ・パリでは、元中量級世界チャンピオン中西英敏氏に参加、ご協力いただいたが、スタイルの異なる2人での指導は大変有効であった。

また、中川館長ご自身も柔道衣に着替えられ、ご参加していただき、私の挨拶や質疑応答の通訳までしていただいた。

柔道経験が豊富で、その精神を良く理解されている中川館長の通訳は、大変心強かった。実技指導が終わっても写真撮影、そしてサイン会が続き、多少疲れたが、次のスケジュールへの移動の為、参加者全員の希望に応えられなかった事が心残りであっ

た。(これらの様子は、現地の新聞等でも一部報道されたので、写真と共に添付したい)

2) 講演

聴衆者は、マルセイユ約200名、パリ約200名、ボルドー約80名で、(マルセイユ、ボルドーでは、大半がフランス人、パリでは日本人フランス人が半々であった。)マルセイユでは、PACA州議会の本会議場で講演を行っていたが、ここでは議長も出席され冒頭あいさつをされた。

ボルドーでは、ボルドー大学の講堂で行われ、ボルドー大学の学長があいさつをされた。3会場とも、私の持ち時間は実質30分から40分(通訳を含めて1時間強)とやや短かったが、フランス柔道連盟の会長や役員が全ての会場で出席あいさつする等、この講演会に対してもフランス柔道連盟の積極的な姿勢が強く感じられた。講演では、選手、指導者としての柔道を通した国際交流、柔道の心、現在の私の活動(柔道ルネッサンス活動、柔道を通した人間教育、国際柔道連盟教育コーチング理事としての活動)を中心として話したが、各会場とも皆熱心に聞いていた。また、フランス柔道連盟の関係者はもとより、PACA州会議長やボルドー大学学長が柔道の精神や柔道の持つ教育的価値について良く理解されているのには、驚かされた。

今回の行事では3都市全てにおいて、大変歓迎されたが、これらを通して改めてフランス柔道連盟の組織としての力強さを感じた。また、これまで何度かこのような行事に参加してきたが、今回の行事はパリ日本文化会館とフランス柔道連盟の連携が素晴らしく、これまでにない中身の濃いものにする事が出来た。今後もこのような行事を企画する場合、現地との綿密な打ち合わせ、開催地の関係者の積極的な参加が行事の成功に不可欠であり、今回の例は非常に成功したケースであると考えられる。

今回の一連の行事を通して、パリ日本文化会館の活動と柔道を通した日本の心を少しでもフランスの方々に伝えることが出来たとすれば、この上ない喜びである。

この場をおかりして、このような行事を企画していただいたパリ日本文化会館並びに国際交流基金文化事業部、そして、パリ到着から最後までお世話をいただいた中川館長に心から謝意を表したい。